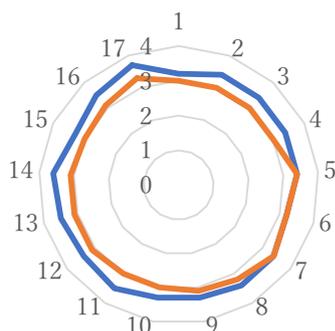


令和4年度 教育目標に対する卒業時の到達度自己評価平均値

	評価項目	令和4年度評価 平均値	令和3年度評価 平均値
1	人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在として理解できた。	3.24	3.09
2	人間を家族・集団・地域・社会の中で生活を営む存在として理解できた。	3.4	3.09
3	看護の対象の成長発達段階を理解できる。	3.4	3
4	対象の健康水準が理解できた。	3.36	3
5	豊かな感性、やさしさ、思いやりをもち共感的態度で対象に関わることができた。	3.68	3.36
6	自己理解、他者理解をし、信頼関係を基盤とした人間関係を築くことができた。	3.56	3.18
7	生命の尊厳について理解し、人間尊重に基づいた倫理観をもち行動できた。	3.4	3.36
8	専門職業人、社会人としての自覚を持ち責任ある態度が身についた。	3.44	3.18
9	看護の実践に必要な知識・技術・態度が身についた。	3.32	3.09
10	あらゆる場面に対して問題意識を持ち、状況に応じた判断能力を身につけることができた。	3.28	3
11	科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、その人らしい生活を支援できる判断と行動がとれる能力が身についた。	3.48	3
12	安全で安楽な看護が実践できた。	3.44	3.09
13	保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解することができた。	3.48	3.09
14	保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と責任を自覚し、協働することの必要性が理解できた。	3.56	3.09
15	国際的視野で、国内外の社会の動向に関心をもつことができた。	3.28	3
16	看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢をもつことができた。	3.48	3.09
17	自己の看護観をもつことができた。	3.72	3.27

卒業時到達度

— 令和4年度平均値 — 令和3年度平均値



令和4年度 教育目標に対する卒業時の到達度自己評価結果考察

教育課程において設定した5項目の教育目標に対し、【卒業生の特性】として本校の卒業時の到達度を示している。

令和4年度第28期生の卒業時の到達度自己評価として、17項目についてアンケート調査を実施した。アンケートの趣旨を文書で説明し、回答をもって同意した3年生25名が参加し、その場で回収した。

回収率：100%

結果については、「令和4年度 教育目標に対する卒業時の自己評価結果平均値」を参照。

評価：4段階 『よくあてはまる』『あてはまる』『あまりあてはまらない』『まったくあてはまらない』を数値化し、平均値を算出した。

【考察】

評価結果の資料を参照すると、17項目すべての評価項目の平均値はすべて3.0以上で『あてはまる』と評価した学生が多く、おおむね到達していると評価している。令和3年度の評価項目で平均値が低かった項目「国際的視野で国内外の社会の動向に関心をもつことができた」では、新カリキュラムで文化人類学や国際看護の教授を依頼している講師に特別講義を行ってもらい、旧カリキュラムで不足する学習内容の補充を行った。そのため平均値も3.0ポイントから3.28ポイントと微増した。平均値は微増してはいるが他の項目と比較すると最も平均値が低い項目である。学習内容は1回の特別講義で補える学習内容ではないため、令和5年度卒業生までの旧カリキュラムの学生に対する学習の補充を考える必要がある。その他の16項目については、資料のとおりどの項目も平均値が上昇している。特に大きく上昇した項目は、「安全・安楽な看護が実践できた」「保健・医療・福祉チームにおける看護の役割と責任を自覚し、協働することができた」「看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢をもつことができた

」「自己の看護観をもつことができた」であり、0.4ポイント以上上昇している。

学生自身の自己評価、評価結果の平均値をみるとおおむね卒業生の特性に到達できており、学校がめざしている看護師像に到達して卒業できたと評価できるが、学習の到達度を客観的に現すGPAで確認してみた。第28期生は、2年よりGPAを導入しており、3年間のGPAは算出できていないが、2年間の25名の卒業生の下位1/4ラインはGPA3.01であり、令和3年度卒業生と比較すると3.03から0.02ポイント低下、また下位1/4に7名の学生が存在している。25名中28%の割合が下位1/4に存在している。

入学当初から学習への取り組みが不足し、単位未修得となった学生も多く存在した学年である。入学当初から真面目に学習に取り組んだ者、もしくは学年が進級するにしたがって学習に取り組む姿勢が変化した者は力を獲得し、成長できているものと考えられる。一人ひとりの学力の差は卒業時点でも明らかであり、結果としてGPAが現す結果となった。学生の自己評価結果について到達度が高かった理由は、クラス全体が協力し合い、グループダイナミクスが働くクラスであること、自分なりに精一杯頑張ったと自身を評価している学生が多いことが推測される。しかしながら、下位1/4の7名の学生については、学習力は不足しており、今後看護師として社会人となっても不足分を補い、更なる努力が必要になると考えられる。次年度の課題として、学生自身の自己評価結果と客観的学習の到達度評価が乖離しないよう、学習力を向上させ、卒業生の特性が身につくようクラス運営と学習指導両方をバランスよく強化す

る必要がある。